

《令和4年度阿南市在宅医療・介護連携支援センター事業》
第3回ケアカフェ（多職種連携研修会）

開催日：令和4年12月27日（火）

時 間：15:30～17:00

場 所：阿南医療センター講堂

会議名：令和4年度 第3回ケアカフェ（多職種連携研修会）

目 的：多職種が顔の見える関係づくりの構築及び連携強化

参加者：30名

特別養護老人ホーム・訪問看護・お世話センター・居宅介護支援事業所の各職員、阿南医療センター医師・看護師、ワーキンググループ会議委員、阿南市地域共生推進課職員、阿南市在宅医療・介護連携支援センター職員

挨拶：阿南市保健福祉部 福祉事務所 石本祐一所長

阿南医療センター 緩和ケア内科部長 寺嶋吉保先生



阿南市保健福祉部 石本所長



阿南医療センター 寺嶋先生

【講義1：呼吸器疾患患者の在宅療養移行～暮らしと笑顔を守る支援～】

講師：阿南医療センター 慢性呼吸器疾患看護認定看護師 田神由香 講師



慢性呼吸器疾患患者は病とともに生きること
に焦点がある。患者さんと「在宅で酸素吸入をしながらの生活」をどう捉え関わるかの支援手法について講義を頂いた。在宅で酸素吸入しながら生活できる治療法について基本的ケアを知ることが重要である。HOT導入のためのアセスメントや機器操作に慣れる練習を病院で実施しての在宅生活となる。入院

中に入浴評価、栄養療法、セルフマネジメント支援として呼吸リハビリテーション、薬物療法を多職種が連携して支援していくことがポイントとなる。

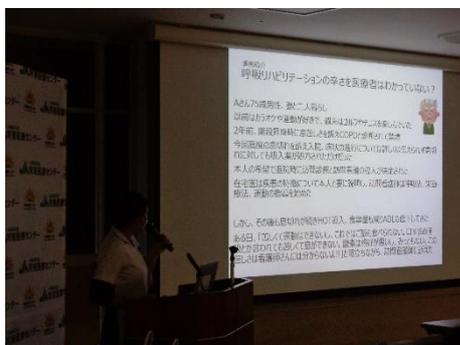
また、防災教育として南海トラフ巨大地震等に備え、もしもの時の為に患者さ

ん本人・家族等、そして患者さんに関わる職種の医療・介護の従事者が一体となることが重要であり、患者さんにも防災教育を受けて貰うことも必要不可欠である。

慢性呼吸器疾患の看護者様へ「なぜ吸入治療が必要なのかしっかりと伝える（初回指導が重要）」、望む生活をどう提供していくか提案する視点として、暮らしを守る、生きがい（笑顔）を守ることが最も大切である。

最後に、多職種連携での支援に対しては、専門性の違いを認め相互補完できる関係性の構築も重要である。

【講義 2：事例検討】



当初、事例検討は、グループワークを予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、講義1で学んだことを踏まえ、個人ワークでの事例検討に変更して行った。

この事例はよく直面する事例で、参加者は真剣な眼差しで講義内容を踏まえ試行錯誤して対応を考えた。

個人ワーク終了後に、講師より対応例について説明して頂き、参加者からは、対応方法の悩みを解決することができた。また、本日のケアカフェで共通認識をして多職種連携ができること、自分や事業所にはない考え方や手法を知り、今後の業務・対応への安心に繋がったとの意見があり、今後もこのようなケアカフェに是非、参加したいとの要望もあった。

阿南医療センターの寺嶋先生より、この研修を受けて慢性呼吸器疾患患者の介護・福祉施設での受け入れも高まることを期待したい。今後、カフェで構築した関係で、医療と介護の連携による住民への安心を届けようと力強いお言葉を頂いた。

【総評】

慢性呼吸器疾患患者さんへの対応は、本人にとっての最善を考え、本人の在宅での生活の価値観、人生観、願い、人生の目標などを把握し、多職種で共有し連携していくことで安心して頂くことが重要であると認識できた研修であった。

在宅酸素療法だから、無理させない、できないという概念を取り払い、この研修で学んだことで患者さんが「住み慣れた町でいつまでも暮らし続けられる」よう多職種連携による支援を行っていける良い研修会となった。

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、グループワークを個人ワークとしたが、コロナ禍でなかなか会うことができない、名前は知っているが顔が分からない、医療や介護に携わる方々と直接会ってコミュニケーションを図ることで連携ができ、在宅で酸素

療法を受けている方が在宅での生活を長く継続できるよう、専門性を高めるケアカフェとなった。

感染対策として、阿南医療センター職員の御協力により自施設での健康確認・阿南医療センター玄関・会場で検温及び消毒の徹底をして開催した。

今後も感染症対策等を徹底し、顔の見える関係づくりで、連携構築を目指したい。

【研修会風景】



※研修動画を希望される方は阿南市在宅医療・介護連携支援センター

「anda-kan2@kenshokai.group」へメールにてご連絡ください。

尚、今年度のケアカフェの動画配信は期間限定ですので、配信期間以降の視聴はできませんので、御了承ください。

担当:センター長 湯浅 祐司